

未治療咳喘息に対するブデソニド / ホルモテロール配合剤とブデソニド単剤治療の比較検討

岩田敏之¹⁾、新実彰男²⁾、松本久子¹⁾、伊藤功朗¹⁾、小熊 毅¹⁾、竹村昌也³⁾、福井基成³⁾
大塚浩二郎⁴⁾、富井啓介⁴⁾、竹田知史⁵⁾、上田哲也⁵⁾、長谷川吉則⁵⁾、松岡弘典⁶⁾
鈴木雄二郎⁶⁾、井上英樹¹⁾、田尻智子¹⁾、長崎忠雄¹⁾、金光禎寛¹⁾、三嶋理晃¹⁾
京都大学呼吸器内科¹⁾、名古屋市立大学大学院医学研究科腫瘍・免疫内科学²⁾
北野病院 呼吸器センター³⁾、神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科⁴⁾
済生会中津病院呼吸器内科⁵⁾、神鋼病院呼吸器内科⁶⁾

【背景・目的】咳喘息の初期治療薬として、吸入ステロイド薬単剤または長時間作用性 β 2刺激薬との配合剤のいずれが最適であるか比較検討した報告はない。咳喘息に対するブデソニド / ホルモテロール配合剤(FBC)とブデソニド単剤(BUD)の効果を比較検討する。

【方法】未治療咳喘息例50名をFBCまたはBUD群に無作為に割付け、4週間の治療の有効性を比較検討した。

【結果】FBC群(26名)、BUD群(24名)に割付け後、各々23名、22名が治療を完遂した。両群共に咳症状(LCQ、VAS、咳スコア)が有意に改善したが、治療薬による差はなかった。呼気NO、末梢血好酸球数、血清ECPはFBC群でのみ有意に低下した。尚、全例解析では日中の咳スコア改善度とBMIで負の相関、夜間の咳スコア改善度と吸入アドヒアランスに有意な正の相関を認めた。

【結論】BUDとFBCは共に咳喘息に有効であり、FBCは好酸球性炎症をより改善させる可能性がある。